



13号

平成29年3月1日発行

雲南地区保護司会
 (事務局:雲南市三刀屋町三刀屋199)
 (TEL・FAX (0854) 45-5850)
 題字揮毫: 渡部 幸子
 印刷: 松栄印刷有限会社



志の高い皆様との
さらなる連携と協働を

雲南警察署 署長 廣 瀬 勉

雲南地区保護司会の皆様には、更生保護活動をはじめ犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築かれる活動に取り組まれているほか、警察活動に対し深いご理解とご協力を賜り、心から厚くお礼申し上げます。

さて、県内においては、犯罪発生件数がピーク時に比べ半減するなど、数字の上では、治安の改善傾向が見られているところです。しかしながら、高齢者の方が多く被害に遭われている

特殊詐欺被害の多発や多数の不審電話等、地域の方々の犯罪被害に対する不安は払拭されていないと認識しております。また、平成二十七年版「犯罪白書」によりますと、刑法犯の再犯者率及び再非行少年率は、平成九年から上昇し続け、平成二十六年は再犯者率47・1% (再非行少年率34・9%) であり、再犯防止対策も重要であると考えております。

警察においては、高齢者宅等への訪問活動や地域安全情報の発信、パトロール等の街頭活動などを強力に展開していますが、すべての地域の皆様が真に安全・安心を実感する地域社会を

実現するためには、警察の力だけでは限界があり、皆様方をはじめとする地域を構成する志の高い関係機関、団体、ボランティアの皆様との連携・協働による取り組みが重要となります。今後とも、「社会を明るくする運動」をはじめめとして、雲南地区の安全安心のためのさらなる連携と協働を切にお願い致します。

平成二十九年は、干支十二支の「丁酉」であり、「仕事や挑戦してきたことへの結果や果実を勝ち取る」年です。皆様にとりまして、この一年がこれまでの活動が結実する年となりますことを祈念申し上げます。

表紙の写真

「吉田町のたたら」平成二十八年度日本遺産認定
 たたら製鉄とは、粘土で作った箱型の炉に砂鉄と木炭を入れ高純度の鉄を造る日本古来の製鉄法です。

吉田町吉田には、和銅生産研究開発施設があり、実際に鉄鋼を作る「操業」まで体験することが出来ます。

受賞おめでとうございませう

法務大臣表彰

法務大臣表彰を受賞して思うこと

雲南市掛合町 山中 洋美

私の住んでいる地域は、平成八年に前任者から引き継いでから二十年の間、一人も対象者のない地域でした。

これまでの活動をふり返ってみますと、社会を明るくする運動[®]に関しては、それなりの活動をしてきたつもりですが、[®]更生保護[®]に関しては、あまり積極的ではなかった気がします。

刑務所や少年院などの視察研修のたびに、「この人達は赤ちゃんのときから犯罪者だった訳ではなく、何らかの事情で人の道を踏み外すことになってしまったのだ（運命としかいいようのないものも含めて・・・）」

戦死した父の故郷に疎開してきた我が家には田畑もなく、ガリガリの痩せでしたから「もう

少し何か食べさせられないか」と担任が家庭訪問をするほどでした。水を飲んで過ごした弁当の時間。「貴女は、一人で大きくなったんじゃないよ、周りの人のおかげでこうして生きていられるんだよ」母は口ぐせのようにこう言っていました。

もし、あの頃、周りの人達の援助や、暖かい目差しがなかったら、『もしかして・・・』私だって・・・』と考えてしまいます。

あと数年の保護司生活ですが、受賞を機に更生のために努力している皆さんのために、何か私にできることはないか、よく考えて、実行に移していきたいと思っています。

平成28年度島根県更生保護事業関係者顕彰式典



顕彰式典 平成28年11月16日



法務大臣表彰

法務大臣表彰を受賞して

雲南市木次町 坂本 暢子

平成二十八年度鳥根県更生保護事業関係者顕彰式典において法務大臣表彰を受賞させていただきました。身に余る光栄と感謝申し上げます。

平成六年に保護司の役割も理解しないまま、大役を引き受けて以来二十余年が経過しました。保護観察所の観察官による定期的な研修でいろいろなケースを勉強し、いざと言う時に保護観察の任が適切に果たせるように準備をしてまいりました。準備が準備のままで出番がない地域であってほしいと願っています。

そのためには、日頃から子供たちを取り巻く周囲の大人が愛を持って、見守り、声掛けをし、犯罪の芽が顔を出さないようにすることで「犯罪のない地域づくり」が大切と思われます。最近では何処の地域でも実施されている多くの善意ある方々による「見守り活動」は貴重で意味のある活動であると思います。

私は保護司の任務の遂行はもちろんですが、

一方でこの役をしていることにより、広域の経験豊かな方々との出会いや繋がりがから、とても多くの人生勉強をさせていただいている恩恵も有り難く、深く感謝しております。

この受賞を機に犯罪のない社会づくりに向けて、微力ではありますが自分にできる役割を担って努力していきたいと思えます。



平成28年度更生保護事業関係者顕彰

(敬称略)

表彰種別	被表彰者氏名		
叙勲・瑞宝双光章	松浦 昇		
法務大臣表彰	板垣 秀和	坂本 暢子	山中 洋美
全国保護司連盟理事長表彰	松田 勉		
鳥根県知事感謝状	新田 裕至	渡部 幸子	
中国地方更生保護委員会委員長表彰	山本 勝昭	岩田 桂子	
中国地方保護司連盟会長表彰	熊谷 高暢		
松江保護観察所所長表彰	永田 一博	若月 薫	



美祢社会復帰促進センター 平成28年9月23日

雲南地区保護司会自主研修に参加して

雲南地区更生保護サポートセンター

次長 石 飛 由美子

平成二十八年九月二十三日、山口県美祢市美祢社会復帰促進センターを保護司十三名で視察しました。

この施設は、我が国初のPFI手法（プラ

イベント・ファイナンス・イニシアティブ）公共施設等の建設、維持、管理、運営等を民間の資金、経営能力を活用して行う新しい手法）を活用した官民協働の刑務所です。島根県では、

島根あさひ社会復帰促進センターが同方式で運営されています。視察先は、広さ東京ドーム六ヶ分、収容人員千三百人（男五百人、女八百人）で女子刑務所としては、我が国最大とのこと。コンクリート塀や鉄格子のない刑事施設で、保安に関しては、多重のフェンスを巡らせ各種防犯センサーの充実をはかり、窓からの採光、視界を確保する等、一般社会に近い環境で生活する様にとのお話しもありました。又、地域との共生（地産地消）を図りつつの運営がなされ、食材の調達、雇用、この地の既存の保育園を敷地内に設け、地域の子ども達に通えるシステムにしたり、食堂や売店は地域の方の利用も出来たり、画期的な取り組みがなされています。所内に入ると保安の面ではしつかりなされていますが、圧



美祢社会復帰促進センター全景

迫感は余り感じられず、読書室、テレビ室等もあり、一般社会に近い環境で規則正しい生活をしながら矯正していく姿を思い浮かべました。社会のルール、規律に反する行為、行動を起こしてしまふ人、起こそうとする人を作らない、作らせない人作り、社会作りが大切であることや更生に向う人を支える社会や私達の重要な役割について考えさせられた有意義な研修でした。

第66回社会を明るくする運動

作文コンテスト入賞作品

日本BBS連盟会長賞
更生保護法人 島根保護観察協会理事長賞

中学生部の

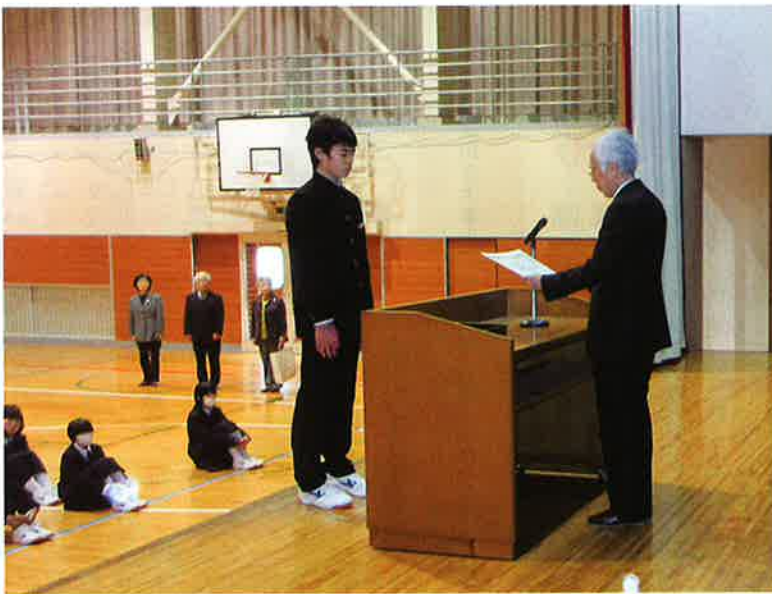
「ぼくの名前」

雲南市立掛合中学校 三年

横 貝 伸 樹

伸びる樹と書いた「伸樹」。これが僕の名前。その由来を、両親に聞いたことはない。だが僕の兄弟の名前にはみな「樹」が付いている。きっと、一人一人の「樹」に期待することがあるのだらうと思う。僕の場合、「ぐんぐん空に向かって伸びていく樹のように、大きくたくましく育ってほしい」という願いが込められているのだらう。自分の名前の意味を考えると、僕に對する両親の思いが、なんだかひしひしと伝わってきた。

しかし、僕は親が命名した名前とは、真反対の人間になっていた。幼い頃は、昼寝の時間が退屈だからといって、保育園を脱走した。小学生になると、授業中に大騒ぎをして、毎日のように先生に怒られていた。けんかだつて何度繰り返したか分からない。僕が問題を起す度に、学校から電話がかかってきて、両親は毎回至るところに謝っていた。家でも兄弟と言い争いをしたり、出かけたときも、すぐにすねたりして、周囲にため息ばかりつかせた。どれだけたくさんの人に迷惑をかけてきたことだらう。典



型的な「悪ガキ」である僕の「樹」は、健やかに伸びることなく、グネグネと右に伸び、左に伸び・・・。

まさに問題児だった僕。しかし二年前、中学校に入学したときは、小学校の時の反省を活かして、新たな場で頑張ろうと思っていた。今までの自分を払拭し、素直で聞き分けの良い、良い子に生まれ変わろうと。だけど、やはり簡単に人が変わることはできなかった。身勝手な行動を取って、叱られる、先生を呆然とさせる。今年度になっても、嫌なことからはすぐに逃げていた。ゲームの時間をめぐり両親と口げんかをして、欠席。市総体で惜敗し、気持ち沈んで、欠席。自分の弱さばかりを露呈し続けた。果たして、「樹」は一体どこへ進むのだらうか・・・。そう思っていた。

でも、そのような時も、学校の先生方や友達が見捨てず、支えになってくれた。欠席した翌日、学校に行くと、先生は明るく、「横ちゃん、元気になったかね。」と声をかけてくださった。友達は、「おっ、来たな。」

と笑顔でやってきて、いつも通りに背中をたたいてくれた。そのパンチは少し痛かったけれど、僕が学校に来るのを心待ちにしていたことを伝えるもので、じわりと胸に響いた。一緒に笑ってくれる友達もいて、とても元気をもらった。僕は友達や先生からの一言や、一緒に笑って

れる人がいると実感するだけで、勇気がわいて、学校が楽しいと思うようになった。右に左に歪みながら成長していた「樹」も、少しずつ上を向いて伸びていくようだった。

「まっすぐ伸びる樹のように、大きくたくましく育ってほしい」。紆余曲折を経て、僕は自分の名前について再び考える機会を得た。空にむかって伸びる樹のように、大きくたくましく育つには、自分一人で、一本の樹だけで伸びることはできない。周りの樹の支えがあつてこそ、大きく素直に成長できる。そして、これから周りの支えてくれる樹がどんどん増えていくのだろう。僕の暮らす掛合の山々に茂る、多くの木々、よく見ると、それらも複雑に絡み合い、お互いを支え合いながらまっすぐ天に向かって伸びている。

今後、色々な人と関わり、自分の手でまわりの樹を増やしていきたい。自分で努力をすればするほど、仲間という樹を増やすことができると思う。自分を伸ばすために、人との関係を深め、コミュニケーションを大切にして、頑張っていきたい。さらに、人に支えてもらっただけではなく、今まで僕を支え励ましてくれた人達を、今後は僕が支えたい。少しでも、自分と同じような人達の役に立ちたいと、強く思う。

これからの僕の目標は「逃げない」だ。辛い時、苦しい時、たくさんあるだろう。しかし、この名前に感謝しながら、少しでも伸び続ける大きな樹を目指して成長していきたい。

社会に目を向けると、子が親を殺したり、いじめで中学生が自殺したり、教師を生徒が暴行し、逮捕されたりするなど、痛ましいニュースが相次いでいる。しかし、彼らにも今一度「自分」をふり返ってみてほしい。一人一人に付けられた名前。そこに、両親や親戚、周りの人々

がどのように願いを込めたのか。その一つ一つの文字に、どのような人間になることへの期待がこめられているのか。自分の名前の意味を、ふと立ち止まって考えることで、生き方のヒントを手に入れることができるかもしれない。それが、犯罪や非行の歯止めになっていく

山陰中央新報社賞

きびくしやんやんしやん

明るい社会を

雲南市立大東小学校 六年 堀内 凜音

小学生部の

「社会を明るくする運動」と聞いて、私は学校生活のことが思いうかんだ。

四月から六年生になった私は、そうじの班長をしている。そうじの班は人数がとても少ない上、私の班の一年生は言うことを聞いてくれない。だから、いつもそうじは、終わる時間までに間に合わない。一年生は、何回も高学年の人たちで注意をしても、全然言うことを聞いてくれないのだ。

授業公開日の日に、その一年生の親さんがそうじの様子を見に来てくれた。一年生の親さんは、おこつて注意をしてくれたが、それでもその子は言うことを聞いてはくれなかった。それなのに、先生が言うときちんとそうじをするのだ。

「私たちが注意をしても聞いてはくれないのに、なぜ?」

と思い、私は少し腹が立った。

ある日、一年生がそうじの時間に、「ろう下のそうじがやりたい。」

と思う。
「伸びる樹」と書いて「伸樹」。僕は、この名前が大好きだ。

と言ってきた。私は五年生に相談し、一日だけろう下のそうじをしてみようことにした。すると、その日は、自分からそうじをしてくれた。でも、前のそうじ場所では、ろう下のそうじをしていたのに、

「教室そうじがいい。」

と、確か言っていた。だから、今のそうじ場所では教室そうじにかえたのに、今は、

「ろう下のそうじがいい。」

と言っている。私はどうしたらいいのか、わからなくなった。そうじの反省カードを見ると、一年生のところには「×」ばかりついている。

「何できちんとしてくれないの?」

と思い、班長としてやはり腹が立った。

私はこのことを先生に相談した。先生は、

「きびしく言ってもだめなら、やさしく注意してあげて。」

と、アドバイスをしてくれた。それを聞いて、私は、ぞうきんをしている一年生に、

「ここからふくといよいよ。」

とやさしく教えてあげたり、

「上手だね。」

とほめてあげたりした。すると、前よりも少し上手にそうじをするようになってきた。

前までは、そうじが始まるまでに来なくて、いつもみんなでさがしに行ったりしていたけど、自分で始まるまでに来るようになった。私はそんな一年生の姿を見て、よかったと思い、

うれしくなった。

思えば、最初のころはみんなできびしく注意をしていた。注意の仕方や声かけをかえただけで、一年生はそうじ場所におくれずに来て、そうじもきちんとするようになったのだ。だから、私はきびしく注意することも大切だけど、やさしく注意することも大切だと思った。やさしく注意するだけで、人の心もきつと明るくなるのだろう。だから、私はいつもきびしくするのはなく、やさしく注意ができる班長になりたいと思った。そのためにはそうじの時間ばかりではなく、日ごろの生活からみんなが明るい気持ちで楽しく学校生活を送れるようにサポートし

島根県更生保護女性連盟会長賞

一人ひとりの力で作る

明るい社会

雲南市立斐伊小学校六年 亀山心寧

小学生部の

テレビや新聞のニュースにあまり関心のない私の耳にも、毎日悲しい知らせがとどきます。今朝も、殺人事件が起き、多くの方々がなくなつたというニュースを聞いたときに、私はとても悲しくなるし、はらが立ちます。犯人はなぜそんなことをしなければならぬのでしょうか。

私は、犯罪を起こす原因の一つに、子どものころの遊び方があるのではないかと思っています。例えば、お祭りに行くとおもちゃの銃を売っています。そういうおもちゃの銃で遊んでいた子どもたちが、本物を使ってみたいと思うようになり、大した理由もなく人の命をうばっている

ていくために、やさしく注意することを意識してすごしていきたいと思う。

最近、テレビや新聞を見ると、犯罪やいじめが増えてきていると感じる。犯罪やいじめはどのようにして起こるのだろうか。犯罪を犯したり、いじめをしたりする人は、おこられずに育つてきた人か、おこられてばかりで、周りの人から優しくしてもらっていない人だと思う。悪いことを悪いと言われずに育つてきているので、悪いことが何か分からず行動してしまい、犯罪やいじめを犯してしまうのではないだろうか。あるいは、いつもおこられてばかりで、自分のことを認めてもらえなかったために、自分なんかど

のではないのでしょうか。お祭りの屋台には、「人に向けてないでください。」という注意書きがはつてありますが、そんなに危険なものなら最初から作らなければいいと思います。おもちゃの銃や刀で人を傷つけるような遊びをした経験が、犯罪につながつたのではないかと私は思います。

また、祖母の言葉からも犯罪のきっかけが想像できます。祖母は、

「犯罪を起こす人は、悲しい出来事があったり、いやなことがあったりして、それをほかの人につけていっているのだろう。」
と言います。いやなことがあって、その人がとても傷ついたということは私にもわかりますが、だからと言って人を傷つけてもいいということにはならないと思います。

そして、子どもたちが「人」に気をつけなければならぬ時代だということも、犯罪に大きく関係していると思います。夏休みに入る前にも、先生から不しん者には十分に気をつけるようにと注意されました。子どものころから「人」

うでもいいと思ひ、犯罪やいじめを犯してしまふこともあるのではないだろうか。

だから、きびしくするときにはきちんときびしく注意をしたり、時にはやさしく分かるように注意してあげたりすることが大切だと思ふ。

周りの人が知らん顔をするのではなく、気にかけて、時にはきびしく、時にはやさしく注意することで、犯罪やいじめは減っていくと思ふ。私も注意の仕方を考えながら、友達や下級生に接していきたい。一人一人が気をつけることで、犯罪やいじめのない明るい社会がつかれると思ふ。

をうたがひ、けいかいしながら生きていかなければならないというのはとても悲しいことです。

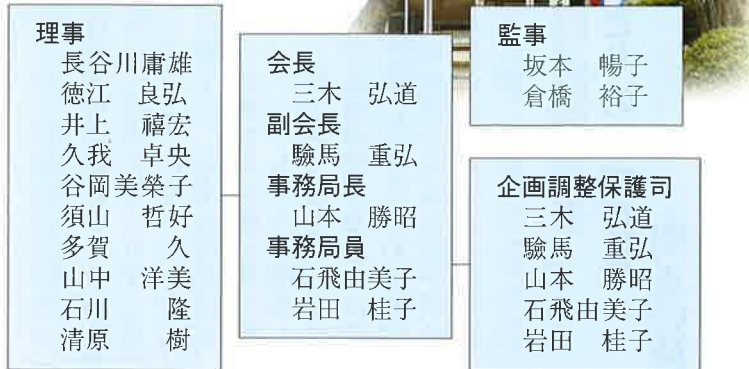
でも、犯罪の原因を考えてみたところで、私にはどうしようもありません。はらを立てたり、悲しんだりすることしかできません。私は子どもだから、社会が動かせるわけがありません。だれもが幸せに生きていくことのできる社会にしてくださいと願うことしかできません。

けれども、それでいいのでしょうか。子どもにもできることがあるのではないのでしょうか。私が生きている社会は、私の家、学校、校区内という、大人にくらべるとせまいものです。でも、だからこそできることがあるはずですよ。考えているうちに、私にもできそうなことが二つ見つかりました。

その一つが感謝の気持ちをもつことです。私は、小さいころから両親に、はしや茶わんの持ち方をきびしく教えられました。どうしてこんなにきびしく教えられないといけないのかと思ひ、反抗もしました。でも、両親は、きつ

雲南地区保護司会

組織図



保護司

保護司数50名(H29. 3. 1現在)

【雲南市】 (大東町) ●井上 禰宏、三木 弘道、加本 勉至、松田 裕文、新田 勝子、土谷 脇桂、岩田 桂子 (加茂町) ●久我 卓央、坪倉 充明、岡田 礼子 (木次町) ●谷岡 美榮子、村上 秀重、馬本 暢子、坂部 幸子、渡部 藤静、斎藤 静雄、藤原 幸雄、佐藤 幸雄	(三刀屋町) ●須山 哲好、高橋 平治、清水 寛子、陶山 頼子、陶山 隆樹 (吉田町) ●多賀 久江、堀江 智江 (掛合町) ●山中 洋美、落合 慧晃、永瀬 千弘、松村 由美子、石飛由美子 【奥出雲町】 (仁多) ●長谷川 庸雄、山本 勝昭、森合 俊雄、千葉 哲之、川本 晃	楠立石 京子、(横田) 典夫、徳江 弘、松浦 昇、高安 千草、若月 部月、松若 薫 【飯南町】 (頓原) ●石川 隆、熊谷 暢、伊藤 志江、藤来 樹、原 裕、高橋 浩一、永田 一博 ●印は支部長
---	--	---

と、それがマナーだからということだけで教えてきたのではないような気がします。

私たちは、多くの命をいただいています。また、一ぜんのご飯にも、お米を作った人の苦勞や願い、たいてくれた人の思いがこめられています。それらの多くの命や願いがこめられた食事を、正しくはしを使いながら感謝していただきなさいということを、両親は私に伝えたいのではないかと思います。

そんなふうにと考えると、当たり前前に食事がいただけでいることに感謝しようという気持ち自然にわいてきました。今日もおいしくご飯をいただけるということは、本当に幸せなことです。このように、家庭や学校でいろいろなこと

に感謝していくことで、私も、周りの人たちに、だれもが幸せな気持ちになれると思います。もう一つがあいさつです。斐伊小学校では、全校であいさつ運動に取り組んでいます。朝登校すると、総務委員会のみんなが元気に、「おはようございます。」とあいさつしてくれます。私も、大きな声であいさつを返します。また、月に何回かは地域の方々が、歩道橋や点めつ信号のところであいさつをしてください。地域の方にあいさつをするのが恥ずかしくて、小さな声になる友達もいるけれど、私は、あいさつをしながら地域の方々とハイタッチをするのが大好きです。大きな声であいさつすると、自然に笑顔になります。地域の方々の手のぬくも

りも伝わってきます。

家庭や学校、地域で、みんなが元気にあいさつをすれば、した方もされた方も、きつと温かい気持ちになると思います。続けていけば、ほかの地域にまで広がっていくでしょう。

このように、一人一人が自分ができることを考え、それを実行していけば、悲しいニュースがへつていき、社会が明るくなると思います。私は、これからも自分に何ができるかを考え、できることから、少しずつでも実行していきたいと思っています。

編集後記

今回、〆〆〆〆に雲南警察署長廣瀬様には、御言葉を賜り表紙を飾っていただきありがとうございました。

平成二十八年度更生保護功労者表彰の皆さんには、犯罪者の立ち直り予防に尽くしてこられました。「社会を明るくする運動」の作文コンテスト小学生入賞作品をご紹介します。力強いメッセージをありがとうございます。

犯罪が減らない現実には心が痛みます。保護司をはじめ地域の皆様が一体となり、犯罪予防の推進に取り組むたいと思います。

(永瀬)

編集委員長 藤原静雄
 編集委員 石川 隆
 編集委員 永瀬 晃
 岡田礼子

若月 薫
 京子

雲南地区の応募数
 小学校 十三校 作品 五十九点
 中学校 六校 作品 十五点